

## 基 調 講 演

テーマ：東日本大震災を経験した日本の安心と安全をどうするか  
－技術者が果たすべき役割について－

講 師：土田 孝



### 略 歴

昭和 51 年 4 月 運輸省港湾技術研究所土質部土性研究室研究官  
平成元年 10 月 運輸省港湾技術研究所土質部滑走路研究室長  
平成 4 年 4 月 運輸省港湾技術研究所土質部土性研究室長  
平成 14 年 4 月 独立行政法人港湾空港技術研究所地盤・構造部土質研究室長  
平成 15 年 4 月 広島大学大学院工学研究院教授 （現在に至る）

### 活動・論文他

主な研究分野：地盤工学、地盤環境工学、軟弱地盤工学、土木工学

最近の主な論文等：

2010 年 7 月に広島県庄原市で発生した土砂災害の調査と考察-平行斜面中腹の崩壊メカニズムに関する検討-, 地盤工学ジャーナル, Vol. 7, No. 1, pp.295-309,2012.

浚渫土の地盤内圧入による人工干潟造成技術の開発,土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol. 68(2012),No. 2, p.I\_1085-I\_1090,2012.

海成粘土を用いたセメント固化処理土の強度推定法, 地盤工学ジャーナル Vol.7, No.3. 2012.

2011 年 3 月東日本大震災に関する中国支部調査団の調査速報, 地盤と建設, pp.161-178, Vol.29,No.1,2012.

2009 年に東広島市志和町内地区で発生した土砂災害の調査について,地盤工学ジャーナル, Vol.6, No.2,pp. 243-259,2011.

賞罰：土質工学会論文賞（平成 5 年 5 月） 科学技術庁長官賞（平成 10 年 4 月）

地盤工学会技術開発賞（平成 14 年 5 月）

### 講演内容

東日本大震災は、わが国がこれまで経験したどの自然災害よりも大きな影響を及ぼしている。今後も南海トラフ地震、首都圏直下型地震など大きな災害の発生の可能性があるが、今回の震災のような 1000 年に一回クラスの地震、大津波を想定するならば、その対策は防災の専門家である行政、研究者、技術者がどんなにがんばっても完結できず、これまで以上に一般の人々に覚悟を持って大きな役割を要請せざるを得ないことが明かである。このような状況で、どうやったら私たちが「安全・安心」を感じて生活できるのだろうか、わたしたち技術者の役割は何か、ということを考えたい。